

答 辞

長く続いた冬の寒さもようやく遠のき、春めいた暖かな日々の到来が感じられるころになりました。本日は、私達卒業生のために、このような盛大な式典を挙げていただき、誠にありがとうございます。また、松永学長先生をはじめ、諸先生方、ならびにご来賓の皆様方にご臨席いただき、厳かに卒業できることを卒業生一同を代表し、厚く御礼申し上げます。

卒業を目前にして、そう遠くない春の日に、東京農工大学の一員として迎えられた入学式のことを思い出します。それまでの慣れ親しんだ仲間たちと別れ、大きな期待と若干の不安を胸に抱きながら、緑あふれるキャンパスで過ごす、新しい環境へと飛び込みました。その後の6年間、多くの人の庇護のもとで、志の高い仲間たちと出会い、共に学び遊び、そして自由に思考する豊かな歳月を送ることが出来ました。

東京農工大学は小規模な大学で、キャンパス内を歩いているとすぐに友人に出くわします。そんな友人たちの存在なくして、大学生活を語ることはできません。全国から集まった、多様な価値観を持つ友人たちとの交流は、自分になかった考え方や、自分では気づけなかった自分の一面を気づかせてくれました。そして、そんな友人たちと作り上げた学園祭や、様々なイベント、旅行などの思い出は、私にとってかけがえのないものとなりました。友人たちとの別れは辛く寂しいですが、卒業後も同じ大学の仲間として再び会いたいと思います。

今日の私達を取り巻く状況は、決して易しいものではありません。しかし私達は、農工大での講義や専門分野の研究を通して、視野を広げるとともに自ら学んでいく姿勢を身につけることができました。こうした農工大での経験と、新たな出会いを大切にして、それぞれが新たな道を、未来を、切り開いていきたいと思えます。

最後になりました、私たちが無事大学生活を終えることができるのも、先生方や事務職員の方々、そして家族など皆様のお力添えのおかげでございます。重ねて、心より御礼申し上げます。東京農工大学がより一層の発展を遂げることを祈り、つたない言葉ではありますが、答辞とさせていただきます。

平成27年 3月25日

卒業生代表 農学部 獣医学科 6年
菊地原 陽